



病児保育協議会

NEWS

全国病児保育協議会ホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>

第64号

2012年(平成24年)4月1日

〔発行人〕 会長 木野 稔

〔発行〕 全国病児保育協議会

〒535-0022 大阪府大阪市旭区新森 4-13-17
TEL 06-6952-4778 FAX 06-6954-8621

法人化移行プロジェクト

全国病児保育協議会副会長 法人化プロジェクト委員長 稲見 誠



全国病児保育協議会は平成24年度より法人化されることとなりました。

それによって「一般法人 全国病児保育協議会」と名前も新たに皆さんとより良い病児保育に取り組んでいきたいと思っています。

でも、その前に『法人化になって何が変わるのか』『そもそも法人化とは何なのか?』など、いくつかの質問をいただきました。そこで、病児保育に携わる保育士、看護師さんをはじめ皆さまにいろいろと知っていただくために、法人化プロジェクトリーダーの稲見副会長に質問してみました。

Q. そもそも「法人」ってなんですか?

A. 現在の全国病児保育協議会は、私的な任意団体で、つまり、法律的な権利や義務が何もない団体です。これを「法人」とすると、法律に守られた団体となります。しかし、同時に団体としての義務も発生することになります。

Q. 法人化になると協議会の何が変わるのですか?

A. 現在の会員としては特に変わりはありません。しかし、協議会の運営は法律にのっとり、会計報告の義務などが課せられます。



Q. メリット・デメリットは?

A.

【メリット】

法律的に根拠のある団体となるため、一般的な信用度や権威が増します。厚生労働省の対応も、これまでよりは良くなると思われます。

また、将来施設の認証制度などを制定する場合、任意団体より権威のあるものとなります。

【デメリット】

会計報告などを所轄行政に報告しなくてはなりません。それ故、いい加減な領収書などは認められず、会計処理が煩雑になります。

しかし、これは会計が明朗化するためにメリットにもなります。

Q. 法人になると税金が取られるので加盟金があがるのでは?

A. 予定している法人は、非営利型の一般法人です。そのために利益を得るための事業は課税されますが、会員を対象にした事業には原則課税されませんので、協議会への加盟金の値上げは必要ないと思われれます。

しかし、事務局で行政書士や税理士の助力が必要となる可能性があり、場合により、いずれは、多少の値上げが必要になる可能性もあります。

皆さまの疑問にお答えできたでしょうか?

法人化についてのご質問がありましたら是非広報委員会にご連絡ください。



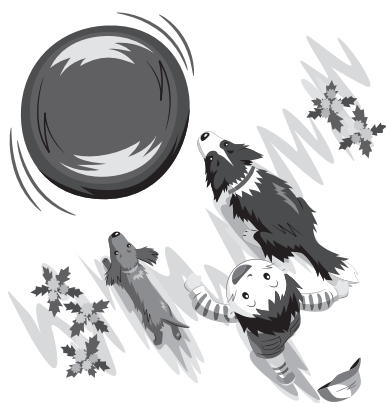
『インシデント管理システム(mims)』を うまく活用できていますか?

毎日の病児の預かりの中で、ヒヤっとしたり、ミスをしてしまったりしたこと（インシデント）が皆様にもあると思います。些細なインシデントを全て報告する事が大きな事故を防ぐ事につながります。

今年より協議会全体で、各施設のインシデントを共有し、未然に事故を防ぐために「インシデント管理システム (mims)」を導入し、すでに稼働を始めました。この度、この協議会ニュースの中に「インシデント管理システム (mims)」のコーナーを作り、疑問点等にお答えするようにしました。

疑問に感じられた事等どんな事でも結構です。どしどし皆様のお声をお聞かせください。インシデント管理委員会や開発元の榊管理工学研究所で対応させていただきます。このコーナーの中でお届けしたいと思います。

全施設に「インシデント管理システム (mims)」を導入し、より安全な、より快適な病児保育を子どもたちに提供していきたいと願っております。



Q. インシデントシステムソフトをインストールしようとするがうまくできない。

パイロット版のソフトを使用していたが、今回の製品版をインストールしようとするとうまくインストールできなくなりそのままになってしまっている。

※パイロット版：このソフト開発にあたり、試験運用をお願いしていた施設のみ該当します。

A. パイロット版でデータのバックアップを取らないで、アンインストールしますとデータが消えてしまいますので、必ずインストール説明書の26～29ページの指示に従って操作をしてみてください。パイロット版をアンインストールしても、今回配布した版がインストールできないという障害があるということは、アンインストールが正常に終了していないと考えます。その場合は、管理工学研究所さんが個別対応をいたします。

初めて使用される施設の方は、手順に沿ってインストールしていただければOKです。

Q. インシデントを作成し、レポート情報の送信/受信を行なおうとしたのですができませんでした。

A. レポート情報の送受信機能はソフト配布時は使用できませんでしたが、3月1日より使用できるようになりました。送受信をしてみてください。

☆ ご意見・ご感想の送付先 ☆

管理工学研究所 ビジネスソリューション事業部 医療福祉システム部

TEL:0776-28-7117(代) FAX:0776-28-7112 E-mail:mims@kthree.co.jp

むかいた小児科・キッズハウス (向田 隆通)

TEL:089-985-0115 FAX:089-985-0159 E-mail:taka@mukaida.or.jp

第22回 全国病児保育研究大会のご案内

第22回 全国病児保育研究大会 会頭 池田 奈緒子

花の便りが北上することに、その辺りの施設に思いを馳せる季節です。いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

2月に皆さまのお手元にお届けしました第22回研究大会の演題募集・参加募集のお知らせには、定員のある以下のプログラムの説明を入れました。

*何でも相談「看護」

*特別企画II 折り紙ヒコーキ教室

*ワークショップ①～⑥

今回のニュースでは、説明のなかったプログラムの紹介をさせていただきます。

講演：会頭招聘特別講演

講師：斎藤 十郎氏

元厚生大臣、参議院議長を務められ、現全国社会福祉協議会会長においでいただきます。

講演：教育講演 I

講師：田中 徹哉氏

かつての笠原先生のご講義が好評だったことを受けて、慶應義塾大学より現在国立国際医療研究センター児童精神科にお勤めの先生から、心理のお話です。

講演：教育講演 II

講師：関口 進一郎氏

慶應義塾大学小児科の先生より、下痢のお話です。

講演：教育講演 III

講師：高橋 美保氏

白鳳大学からお招きし、子どもの発達と食育のお話をして頂きます。

講演：特別企画 I コーラス教室

講師：jammin' Zeb

4人のメンバー全員が絶対音感を持ち、NHKでも大好評です。実力派の呼び声高く、特にアカペラでその威力を発揮する若手ボーカルグループによるコーラスをお届けします。

講演：特別企画 III 手遊び・歌遊び

講師：犬飼 聖二氏

保育士の間ではPiccoloなどでおなじみ、ワークショップもお手伝いいただくワンちゃんです。大会の最後に皆で楽しい時間を過ごしましょう。

この他に、何でも相談を各職種別・同時進行で設けました。

定員制の「看護」に加え、医療機関併設型・保育所型に分かれての何でも相談「保育①」「保育②」、何でも相談「施設長」を設定します。

また、何でも相談「薬」については、飲ませ方等の講演の後、個別相談ができるように机をいくつか用意して、薬剤師が数名待機します。

【懇親会】

7月15日(日) 18:00 (予定)

大学学生食堂

事前参加登録は、5月25日(金)まで受け付けます。

尚、今回は電話・Faxでの申込はできません。Web登録のみとなります。

多くの皆さまのお申し込みをお待ちいたしております。

常任協議員会報告

- *日時**：平成24年1月9日(月祝)
12:00～15:15
- *会場**：八重洲ダイビル 第2会議室
- *出席者**：木野会長、池田、稲見、原木、各副会長
保坂名誉会長、帆足顧問
青木、二宮、各監事
荒井、大川、神原、佐藤(勇)、高橋
永野、羽根、福富、藤本(保)、前田
向田、各常任協議員
佐藤(里)、帆足(暁)
各委嘱常任協議員、井崎名誉会員
鈴木英太郎(オブザーバー)
藪田、堀込(事務局) 計25名
- *欠席者**：松本、南、各常任協議員
野原、藤本(文)、各委嘱常任協議員
山田名誉会員

1. 会長あいさつ
2. 第23回大会会頭鈴木英太郎先生あいさつ
3. 議事録署名人(2名)について
羽根靖之氏、福富 悌氏が選出された。

【報告事項】

1. 事務局

- ◎平成23年度支部合同研修会補助申請は12月末現在承認済みの2件に加え新たに3件の申請があり計5件となった。新たな3件は、四国ブロック、東京支部、大分支部からのものである。
- ◎平成23年12月末現在、協議会加盟施設数は475である。4月以降、入会21施設、退会7施設で差し引き14施設増となっており、堅調に推移している。東京、神奈川、千葉、茨城などの関東地区、大阪、福岡、熊本で複数増加している。退会理由は、施設を閉鎖する、病児保育業務を終了する、協議会の行事参加が困難な為等である。

2. 運営委員会報告(木野委員長)

- ◎運営委員会を平成23年9月22日に開催した。
- ◎インシデント管理システムについては、ソフトウェア使用許諾基本合意書に基づいて進めることとする。
- ◎法人化に関して、会員種別、代議員制の導入について協議した。
- ◎第22回神奈川大会の準備が順調に進んでいることが確認された。第23回山口大会会頭の鈴木英太郎先生に、次回常任協議員会出席を要請する。

第24回大会の開催候補地として、東日本(新潟)を考慮する。

- ◎広報委員会でのHP更新計画、機関誌編集委員会の編集状況を確認した。インシデント管理および感染症対策の両プロジェクトについて、当初の目的は達成されたが引き続きの活動が必要のため、委員会の編成を次回常任協議員会で提案する。

3. 研修委員会(大川委員長)

- ◎委員会は23年10月23日、24年1月9日の2回開催した。
- ◎大分大会に関しては、概ね評判が良かった。神奈川大会でも、大分大会時に新しく編集した基礎研修テキストに沿って大分大会と同じ講師で行う。ステップアップ研修は、異年齢保育などのホットなテーマで考えており、現在絞り込みの最中である。大分大会ではアンケートをしなかったが、神奈川大会では会場で実施予定である。
- ◎研修委員であるが、遠山法子先生が退任されたこともあり、保育士・看護師の増員が必要であり、現在検討中である。
- ◎希望があれば、基本日帰り、地区の勉強会への講師派遣を考えている。
- ◎基礎研修テキストの配布、販売をどうしていくか、残部等を確認しながら検討する。

4. 広報委員会(神原委員長)

- ◎24年1月9日に委員会を開催した。
- ◎HPの業者変更については、現在見積りをもって検討中である。サーバーのレンタル料、メールリングリストの件など、藤本委嘱協議員と連絡をとりながらすすめていく。
→今と同等の機能で安くなるというのであれば、判断は広報委員会に委ねることとする。
- ◎神奈川大会では、未加入施設への入会勧誘コーナー設置を検討している。種々のマニュアル配布があることや大会当日入会すれば、大会参加費を会員価格にする等のメリットを訴えたい。また、大会の案内を未加入施設へ配布していきたい。
- ◎学会での展示であるが、年間で5つの学会へそれぞれ2名を派遣したい。については交通費の予算計上を希望する。
→次期予算案作成時に委員会予算として検討する。
- ◎協議会ニュースでは、インシデント管理システムに関する質問などを取り上げていきたい。

5. 調査研究委員会(羽根委員長)

- ◎24年1月9日に委員会を開催した。
- ◎24年2月に開催予定の次回委員会では、来年度

の実績調査の内容について協議する。実績調査の統計処理については、従来アルバイトを使っていたが、今後は決まった業者でやりたい。予算内で行う予定である。

◎神奈川大会では、調査研究委員会・インシデント管理プロジェクト合同で1時間半の枠をとっている。理論と実践を半々にやる。相談コーナーもつくる予定である。

6. 機関誌編集委員会(原木委員長)

◎病児保育研究第3号であるが、現在8本の論文が届いており、2本は既に査読済み、これから残り6本の査読を依頼する。2月中に査読を終え、原稿を修正していただき順次作成に入る。

7. インシデント管理プロジェクト(向田)

◎インシデント管理ソフトの全施設への導入を目標にしていく。

→会員価格2万円として、費用の予算化については、状況をみながら検討していくこととする。

◎第1弾として、51施設へソフトを送付したが、インストールできない等の問い合わせが入っている。

8. 感染症対策プロジェクト(大川)

◎新潟の佐藤勇先生に感染症対策プロジェクトに入っていただく。

◎24年3月発行の協議会ニュースに“アンケート&出前講座の案内”を同梱する。回答はFAXでいただき、神奈川大会でフィードバックする。その内容を今後のテキストにも活かしたい。

9. 保育園型プロジェクト(高橋)

◎神奈川大会では、活動の活性化を目的に何でも相談のカウンターを設けたい。また、大会に参加していただくことが大事であり、施設長会については、医療機関型、保育園型に分けたほうがいいのではないかと、との提案があった。

10. 自己評価基準プロジェクト(帆足暁)

◎認証制度の1つとして自己評価を考えていかなければいけない。法人化が成れば、次は認証制度プロジェクトを作りその中で考えていく。

11. 20周年記念誌(神原)

◎特に進展なし。

12. 神奈川大会進捗状況について(池田会頭)

◎11月1日にホームページを開設した。大会日程は7月15日(日)、16日(月祝)の2日間である。運営委員会、常任協議員会、各委員会等は前日の7月14日(土)に開催する。演題募集は3月1日から3月31日の間で行う。

◎特別講演及び教育講演3題については決まっている。アンケートをとったところ医療機関型と保育園型で質問内容が全く違うので、何でも相談を復活したい。また、看護師、保育士が楽しめるよう特別企画を3つ考えている。

13. 大分大会報告(藤本会頭)

◎総予算800万円で赤字は発生しなかった。収入内訳は、協議会から200万円、参加費が400万円、公告収入が70万円などである。若干参加者数に読み間違いがあったが、あの規模であれば全国どこでも開催可能である。

【検討事項】

1. 法人化プロジェクト

◎定款の内容については、文言の整理が必要な部分はあるが、大筋合意いただいた。今後は、大分大会総会で法人化は承認済みであり、神奈川大会総会までに新しく法人を申請し、神奈川大会総会では、現協議会の解散、資産及び会員の法人への移行を承認していただくことにする。スタート時の代議員は役員と支部長とする。予め代議員案を作り各代議員の意思確認をしておく必要がある。

2. 各プロジェクトの今後

◎インシデント管理プロジェクトはインシデント管理委員会とする。委員は現委員を移行する。委員長は向田隆通先生とする。

感染症対策プロジェクトは感染症対策委員会とする。委員は現委員を移行し、委員長は大川洋二先生とする。新しく佐藤勇先生に委員になっていただく。

自己評価プロジェクトは一旦終了し、今後新しく認証制度プロジェクトを作って、その中で検討していくこととする。

3. 23回大会について

◎23回大会は、山口県で25年7月14日(日)、15日(月祝)の2日間開催する。会場は、ANAクラウンプラザホテルである。

4. 24回大会について

◎新潟を候補地としているが、現状では開催は難しく、東北を含めた広域で検討することとする。

5. 役員改選について

◎稲見先生を中心に新執行部案を検討していただき、4月か5月に開催予定の(拡大)運営委員会と7月大会時の常任協議員会で審議することになる。

以上

みんなにききたい!

Question

年長児さんから小学校低学年のこどもの遊びを教えてください。(職種不明)



Answer

- ◎年長さんぐらいまでは、やっぱりおままごとは盛り上がります。小学生になると、すごろくやオセロなどのゲームも出来るようになります。(保育士)
- ◎みんなが大好きなのは、ブロックスというボードゲームです。赤、黄色、青、緑の色が付いた透明なプラスチックのピースを、ルールに沿って乗せていきます。簡単です。まだ難しい子でも、綺麗なので並べて遊んでいます。(看護師)

- ◎製作は、あらかじめこちらが準備しているものを作ったりもしますが、年長のお子さんであれば、一緒に製作遊びの本を見るなどして、何を作るか相談する所からはじめても、楽しめます。必要そうなものは、普段から準備しておきます。(保育士)
- ◎女の子には指あみやあやとりも人気です。(保育士)
- ◎トランプがあると、神経衰弱やばば抜きなどのゲームも出来ますし、数字を並べたりも出来るので、結構遊べます。(保育士)

今回の Question

「低年齢でも簡単に出来る工作を教えてください」(看護師)

今度は看護師さんより、工作についてのご質問をいただきました。皆さんの施設では、製作遊びの設定を年齢別にしていますか?低年齢との事ですが、2~3歳と設定させていただきます。2~3歳のお子さんが楽しめる製作遊びの例を募集します!

日々の保育看護での悩みや他の施設ではどうしているのかなどのご質問や質問に対するご意見をお待ちしています!職種をご記入の上、下記までご応募下さい。

郵便:〒080-0038 北海道帯広市西15条北4丁目2-7
FAX:0155-67-1141 E-mail:hinatabokko-kikitai@memoad.jp
「ひなたぼっこ」常丸宛

広報の部屋

あなたの施設の「パンフレット」大募集!

今年の全国病児保育研究大会in神奈川「広報の部屋」では、皆さんの施設のパンフレットを展示する予定です。皆さんの施設では、どのようなパンフレットを使用されていますか?工夫を凝らし、自分たちで作ったもの、行政が作ったもの、広告会社で作ったもの、いろいろあると思います。

また、そのパンフレットはどのように活用されていますでしょうか?神奈川大会の広報の部屋で、アンケートとともに展示する予定です。詳細は次号でお知らせいたします。ぜひ各施設のパンフレットを、多数ご応募ください。よろしく願いいたします。

広報委員長 神原雪子

研修テキスト、感染症ガイドラインの講演を致します

地区勉強会、ブロック会へ出張講演をお引き受けいたします。

昨年度研修委員会では研修テキスト、感染症対策委員会では感染症ガイドラインを作成致しました。その普及に努めるためにブロック会あるいは地区勉強会に解説にお伺いできるよう努める予定です。御要望がある方は希望する項目を明記して事務局に講演の3カ月前までにお申し込みください。講演項目が複数ある場合は優先順位をお付け下さい。講演予定日は日曜日をお願い致します。御依頼があっても講師の都合でお断りすることもあります。ご了承下さい。

研修委員会委員長 大川洋二
感染症対策委員会委員長

編集後記

「法人化移行プロジェクト」の第一報をお届けしました。今後も会員のみなさまからのご質問があればお答えしながら、期待の声などもお伝えしたいと思います。震災から1年、東北の施設の様子をご紹介出来ればと思います。「昼ごはん」のコーナーはお休みします。(広報総務)

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

〔広報委員会総務〕

〒577-0802 大阪府東大阪市小阪本町1-11-3
医療法人あおぞら会 ふじもとクリニック
病児保育室こひつじ 岸本 範子 宛
TEL:06-6730-5828 FAX:06-6730-5828
E-mail:kohituji@fujimoto-clinic.org

〔全国病児保育協議会事務局〕

〒535-0022 大阪市旭区新森4-13-17
社会医療法人真美会 中野こども病院
TEL:06-6952-4778 FAX:06-6954-8621
担当:数田・堀込
http://www.byoujijoiku.ne.jp

